



青森県産品の  
決め手くん  
青森県産品

# 決め手くん通信!

こんにちは。ボクは、県産品PR用キャラクター「決め手くん」。県や関係団体などが取り組んでいる県産品販売促進活動の情報を、毎月インフォメーションで紹介します。



青森の  
正直

## ◆ 阪神百貨店で「北東北三県味と技展」を初開催!

大阪市内の北東北三県合同アンテナショップ「jengo」の認知度向上などを目的に、9月5日(水)から11日(火)の7日間、大阪市の阪神百貨店において、青森県、岩手県、秋田県による合同観光物産展『北東北三県味と技展』が初めて開催されました(写真右上)。

本物産展へは、全体で59業者、うち青森県からは21業者が参加し、「りんご加工品」や「りんご」「嶽さみ」「せんべい汁」等売り込みました。さすがは、大阪の玄関口梅田の阪神百貨店、会場は初日から大盛況。土日は通路を歩くことが困難なほどの人出で、売り上げも、目標の7,000万円をクリア。気になる青森県売上げは、7日間を通してトップを守り、2,600万円を記録しました。中でも、最も人気だったのは、「嶽さみ」で、一日800本限定ということもあり、早い日には15時半には完売。観光コーナーでも、北彩紀行やアスパム観光相談員に相談する姿が多くみられました。

また、土日に開催された長谷川一義社中による三味線演奏では、30度を越す炎天下にもかかわらず約200人の観客を集め、盛り上りを見せていました(写真右下)。

今回、成功裏に幕を閉じた『北東北三県味と技展』。多くの大阪の方々、青森をはじめとする北東北の魅力を感じていただくことができたものと考えています。もちろん、来年も頑張ります!



阪神百貨店で開催された「北東北三県味と技展」



三味線の演奏も盛況

## ◆ 首都圏の食品スーパーで県産野菜をPR!

### ～市場&食品スーパー・リレーション事業～

県と全農青森県本部では、産地と市場、食品スーパーとの信頼関係を構築する「市場&食品スーパー・リレーション事業」により、首都圏バイヤー等を本県に招聘した8月の産地交流会に続き、9月1日(土)から2日(日)に、首都圏のお客様が毎日買い物に来る身近なスーパー「よしや(東京都板橋区)」と「有山(埼玉県所沢市)」で県産野菜を中心としたフェアを開催(写真下左、中)。新鮮な「ながいも」、「にんにく」をはじめ、「こかぶ」や「ねぎ」などを取りそろえ、「ながいものバターソテー」の試食も行いながら、県産品の良さをPRしました。

フェアを通じて、青森県産品や青森県全体に対して消費者が良いイメージを持ってくださっているという印象を受ける一方で、1人暮らしの方や高齢者にとっては、ながいもの1本売りは大きすぎる、という販売面での工夫や、保存方法、料理方法の提案も必要であると感じたところです。

また今回、首都圏のお客様を対象にした県産品に対するアンケートも実施し、100名の方から回答が寄せられました(結果概要下右の囲み)。今後は、りんごを中心として、県内での産地交流会や、首都圏スーパーでのフェアを実施していく予定です。



入ってすぐのコーナーを青森県産品が占領!  
～「よしや」中板橋本店



野辺地町こかぶの認知度高し  
～「有山」新所沢店

アンケート(該当するものに○を付ける方式)結果から見た県産品の消費動向(抜粋)  
 ■「りんご、ながいも等の定番商品を除く県産品のうち、食べたことがあるもの」では、「マグロ」や「食用菊」、「すきこんぶ」など  
 ■「青森県産品に求めること」では、多少単価が高くても、鮮度や品質、また特別栽培などの「こだわり」を持った産品の生産

決め手は、青森県産。

◆ **まるごと事業アドバイザーが産地訪問!**

県では、9月11日(火)~12日(水)の2日間、「まるごと青森産品」販売促進事業のアドバイザーによる産地訪問を実施、五所川原市の「つくねいも」、深浦町の「つるつるわかめ」、大鰐町の「温泉もやし」、外ヶ浜町の「活魚」について、アプローチ先のアドバイスや商品に対する評価をしてもらいました(写真右)。

県では、今後も、アドバイザーの指導・助言を生かしながら、マーケットの情報収集とニーズマッチングを効率的に行い、県産品の販路拡大を図っていきます。



「つくねいも」ほ場訪問の様子

◆ **中国大連市で青森県産品をPR!**

9月13日(木)と14日(金)、県と友好経済・文化交流協定を結んでいる中国・大連市において、県主催の投資促進セミナーとビジネス商談会が開催されました。セミナーには、大連市の人民政府や地元企業関係者約200人が、商談会には、本県企業が16社、大連側から約150社が参加し、知事をはじめ本県企業関係者が熱心に青森県と県産品を売り込みました。

この合間に昼食を取りながら行われた懇談会では、当課小山内課長が「青森の正直」法被姿で壇上に立ち、本県には数多くの魅力ある産品があることをプレゼン。(写真右上)。また、会場内に設けられた県産品PRコーナーには、開場とともに多くの方々が殺到し「ほたて塩焼」や「アップルスナック」などを試食し、「非常に美味しい。是非、家族にも食べさせたい。」などと大好評を得ました(写真右下)。

経済発展著しい中国では、干しナマコをはじめとする海産物の需要が高く、また、食の安全性への関心も急速に高まっていることから、実直でまじめに生産された安全・安心、美味しい青森県産品は、今後、ますます高く評価されそうです。



県産品の魅力をプレゼン



PR・試食コーナー

◆ **今年も「地産地消推進月間」がスタート!**

県では、平成17年から、「ふるさと産品消費県民運動」の一環として、県産農林水産物が最も豊富に出回る9月から11月の3か月間を「地産地消推進月間」として、県民の皆さんにふるさと産品を大いにご利用いただく運動を行っています。

今年も県内の百貨店、量販店等で県産品を取り扱っていただくことになっており、その第一弾として、9月14日(金)から17日(月)の4日間、(株)スーパーカケモ全店で「県産品フェア」が開催されました(写真右上)。これは、スーパーカケモ(株)から産地紹介の依頼があったことを受けて、先に地元産品の販路拡大の協力要請があった中泊町と中泊産の水産物を紹介、商談会を実施(写真右下)したことがきっかけとなったもので、今回のフェアのみならず、両者間においては、通年取引を行う意向も確認されたところです。

「ふるさと産品消費県民運動」は、広く県民の皆さんに県産品を知っていただきそしてご利用いただくことがねらいですが、「県産品フェア」や「ふるさと産品フェア」等を通して、産地(生産者)と販売先による通常取引が拡大していくことも、大きな目的と成果であることから、県では、今後ともこうしたマッチングを積極的に支援していくこととしています。



スーパーカケモ店での県産品フェア



中泊町産「鮮魚」取引商談会

**決め手は、青森県産。**